

昨年一〇月より今年一月末まで、浄土真宗のメインイベント報恩講がつとまりました。

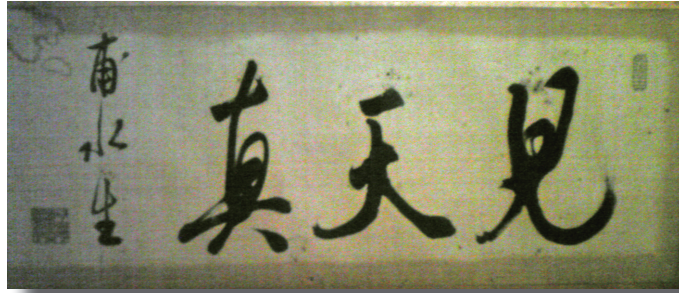
昨年一〇月より、ご門徒

各戸でつとめる通り報恩講がはじまり、ほとんどのご門徒がご縁にあわれました。報恩講を「存じない世代が増える中、今年は「報恩講を知らないのはクリスマスを知らないキリスト教徒のようなものです」とご案内すると（忸怩たる思いもありますが）結構ご理解いただきました。また、今は呉不在の方も、このためだけにわざわざお戻りくださる方もかなり増え、尊いご縁を手を合わせています。

本山に先立ち、現場のお寺でも報恩講をおつとめします。三津田支坊のご講師

おとりこし報恩講

通り報恩講であつたお宝、井上円了先生の扁額（青井正忠さん所蔵）。東洋大学創設者で妖怪博士としても有名な呉にも来られたのでしょか。



は中央仏教学院で活躍の松林行圓先生。仕事や家族を持ちながら寺に参り、抱腹絶倒のお話に腹を抱えて笑いながら、大事なことを



学ばせてもらつ、お膳（法座）は民衆仏教の真骨頂だなど再確認しました。またご満座には、恒例のお斎のお接待がありました（食材は厚井一芳さんと倉員弘明

さんのご報謝。

次に、蔵本通支坊のご講師は、松塚豊茂（島根大学名誉教授）先生。布教使さんではなく知る人ぞ知る念仏者。全国から問い合わせが殺到し、多くの方が四日

間泊まりがけで来られて最前列でお聴聞されました。

信心とは、浄土真宗では

救いを意味する言葉ですが、

先生は七席全部にわたつて

信心を獲得する（救いをえ

る）ところに焦点をしばつて

お話くださいました。少し

だけ御示談での二コマを紹介

します。

（質問）大悲の願船に乗る

とはいつどこで乗つたらいい

のでしょうか。さがしてい

ますが分かりません。

（他の参詣者）いつ乗るかは

今です。どこかは…

（松塚）この質問は急所の

質問です。今日の朝席での

話は、「仏になるのは難し

くない、信心を頂くのは難

しい、それは他力だから」

というのが結論でした。そ

れは新幹線みたいなもので、乗

自動的に目的地につくが、

乗るのが難しい。つめて言う

と乗つたか乗らんかが問題。

乗るのは自力ではありま

せん他力です。乗るとは自

力がすたる瞬間。親鸞聖人

がお示し下さった三願転入

（註①）はそのごと、自力否定の道を教えている。

他力の話をする、観念

化して頭で理解して信心と

錯覚する人がいますが、『観

無量寿経』は定善散善、悪

を廃して善を修めよと説か

れている。自力を超えるこ

は実はここから出てくる話。

皆さんがされてきたお聴聞

では、わが身は何と恐ろし

い奴やというように響きま

せんでしたか？知識を増や

すだけでしたか？どう聞く

か、ここが肝心要です。

この道、仏教は一口でい

ば無我。自己が木つば微塵

になくすること。木つば微

塵にするのが他力。それを

「乗る」と喩えた。この自

力根性のすごさは想像を絶

しています。だからやさし

いようで難しい。仏道修行



蔵本通支坊、満座の様子。